

天声人語

「わしの助役は、厄よけの方の『除厄』である。悪いことは何でも背負い込んでいくから、諸君はふりむく必要はない」。

戦後の復興期、名古屋市の助役として腕をふるった田淵寿郎は

就任の訓示で市職員を励ました▼田淵は先駆的な都市設計で知られる。「大ぶろしき」とあだ名されたが、自動車社会の到来を見越して市街地を買収。道路や公園の用地にあてた。10年あまり助役を務め、地下鉄や港湾の整備にも力を注ぐ。

暮らし向きはいたつて質素だった（本多静雄編著『男の生き方 田淵寿郎伝』）

▼一口に助役と言つても、仕事ぶりは一様ではない。公表された福井県高浜町の元助役をめぐる関西電力の報告書を読んでいざさか驚く。原子力部門の幹部らに届けた品々のリストがすさまじい。現金や商品券、スーツ仕立券のほか、小判、金貨、金杯まで贈っている▼菓子の贈答

袋の底に金品を忍ばせたというから、さながら時代劇である。返そうとする相手には「無礼者」と怒鳴つたという記載もあって、報告書は實に生々しい▼明治以来、自治体のナンバー2として助役は地方政府の要だった。法改正で2007年以来は、副市町村長と呼び名が変わったが、これまで取材でお目にかかる助役はどなたも清廉で実直。手堅い仕事ぶりが記憶にある▼助役をめぐる前代未聞の金品工作が白日の下にさらされた。こみいった事情は多々あったようだが、原発とはそこまでしないと維持できないしろものなのか。改めて考え込んだ。